

キリストへの望み

コリント人への手紙第一 15章 12-19節

はじめに

今日は、月の第二週目なので、「コリント人への手紙第一」から学びたいと思います。コリント人への手紙第一の15章は、「死者の復活」がテーマになっています。

今日の聖書箇所の12節を見ると、「**ところで、キリストは死者の中からよみがえられたと宣べ伝えられているのに、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はないと言う人たちがいるのですか**」。使徒パウロはコリント教会に、イエス様は私たちの罪のために十字架で死なれ、三日目によみがえられたと宣べ伝えました。そして、それを聞いたコリント教会は、そのことを信じたのです。

しかしコリント教会の中には、確かにイエス様は死からよみがえられたけれども、イエス様を信じるクリスチャンは死からよみがえることはないと考える人たちがいたようです。私たちはどうでしょうか？私たちの多くは、イエス様が死からよみがえり復活されたことを信じていますが、イエス様を信じる私たちクリスチャンも、イエス様がこの地上に再び来られる最後の審判の時に、死からよみがえり復活すると信じているのでしょうか？

私たちは、「使徒信条」の中で、「罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえの命を信ず」と告白しています。それは、イエス様がこの地上に再び来られる最後の審判の時に、私たちの「からだ」も死からよみがえり復活するということを意味しています。

今日の聖書箇所でパウロは、私たちの「からだのよみがえり」を信じることの大切さを教えています。

1. キリストは死者をよみがえらせるためにこそ、復活された

なぜ私たちは、私たちの「からだのよみがえり」を信じる必要があるのでしょうか。13節でパウロはこう言います。「**もし死者の復活がないとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう**」。イエス様は、私たちの「からだ」をよみがえらせるためにこそ、死からよみがえられたのです。ですから、もし「私たちのからだ」がよみがえらないのだとしたら、イエス様も死からよみがえる必要はなかつたのです。その意味で、私たちの「からだのよみがえり」を否定することは、イエス様の復活も否定することになるとパウロは言うのです。

イエス様は、イエス様を信じる私たちクリスチャンを、二つの意味でよみがえらせるために復活されました。一つは霊的な意味で、もう一つは肉体的な意味です。イエス様を信じる前の私たちは、罪の中で霊的に死んでいました。しかしイエス様を信じる時に、私たちは霊的に、命を与えられ、新しい命、永遠の命によみがえります。そして神様の子ども

として新しく生まれ、新しい命、永遠の命を生きるようになるのです。これが霊的なよみがえりです。

もう一つは、肉体的なよみがえりです。私たちは、たとえイエス様を信じていても、肉体の死を経験します。しかしイエス様を信じる私たちクリスチャンは、死の時に、魂が完全に聖められ、天国に迎えられます。肉体の死とは、私たちの魂と肉体が分かれることを意味します。しかし私たちは、魂のまま永遠の命を生きるのではなく、イエス様がこの地上に再び来られる最後の審判の時に、私たちの肉体は「栄光のからだ」によみがえらされ、再び私たちの魂とからだがついに結び合わされるのです。そして私たちの魂もからだも救われ、新しい天と新しい地で、三位一体の神様と共に永遠の喜びの中で生きるようになるのです。これが私たちの救いの完成です。

イエス様は、私たちの魂だけでなく、私たちのからだをも救われるのです。そのためにこそ、イエス様は死からよみがえり、復活されたのです。イエス様の復活と私たちの「からだのよみがえり」は、決して切り離せないものです。ですから私たちは、イエス様の復活を信じるなら、私たちの「からだのよみがえり」をも信じなければならないのです。

2. 死者の復活やキリストの復活がなければ、私たちの宣教は空しい

私たちの「からだのよみがえり」を信じなければならない第二の理由は、私たちの宣教が空しくならないためです。14-15節でパウロはこう言います。「**そして、キリストがよみがえらなかつたとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰も空しいものとなります。私たちは神について偽証人ということにさえなります。なぜなら、かりに死者がよみがえらないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかつたはずなのに、私たちは神がキリストをよみがえらせたと言って、神に逆らう証言をしたことになるからです。**

私たちの「からだのよみがえり」がなければ、イエス様の復活も否定することになります。キリスト教が宣べ伝えるメッセージの中心は、イエス様がよみがえられたことです。私たちの「からだのよみがえり」を信じないまま、宣教することは、自分たちが宣べ伝えているメッセージを否定することになるのです。私たちは、もしイエス様の復活を宣べ伝えるなら、私たちの「からだのよみがえり」をも信じなければならないのです。

パウロを始め使徒たちは、イエス様の復活を自分の目で確かに見ました。それゆえ「からだのよみがえり」をも固く信じたのです。ある人たちは、イエス様の復活はパウロを始め使徒たちの信仰心が作り上げた偽りや幻想に過ぎないと言います。もし使徒たちが偽りを宣べ伝えていたのなら、私たちの「からだのよみがえり」も偽りであり幻想に過ぎないでしょう。しかしパウロを始め使徒たちは、命を懸けてイエス様の復活を宣べ伝えました。そして、殉教の死を遂げていきました。彼らは、偽りのために命を懸けたのでしょうか？偽りのために命を失ったのでしょうか？誰も、偽りのために命は懸けられないでしょう。命を懸けてイエス様の復活を宣べ伝え続けた使徒たちの姿を見る時に、それがどうしても偽りとは考え難いのです。むしろそこにこそ、真実があると考えざるを得ないので

す。人は、偽りのためには命は懸けられないけれども、真実のためには命を懸けられるからです。

イエス様の復活が偽りではなく真実であるならば、私たちの「からだのよみがえり」もまた、偽りや幻想ではなく真実であるのです。

3. 死者の復活やキリストの復活がなければ、私たちの信仰は空しい

私たちの「からだのよみがえり」を信じなければならぬ第三の理由は、私たちの信仰が空しくならないためです。16-17節でパウロはこう言います。「もし死者がよみがえらないとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。そして、もしキリストがよみがえらなかつたとしたら、あなたがたの信仰は空しく、あなたがたは今もなお自分の罪の中にいます。そうだとしたら、キリストにあつて眠つた者たちは、滅んでしまつたこととなります」。

私たちの「からだのよみがえり」がなければ、イエス様の復活も否定することになります。そしてイエス様がもし復活されなければ、私たちは今もなお罪の中に死んでいることになるのです。そしてイエス様を信じて死んでいった人たちも、天国ではなく永遠に滅びに向つたことになるのです。イエス様の復活は私たちの救いにとって不可欠なのです。

パウロはローマ人への手紙の中でこう言いました。「主イエスは、私たちの背きの罪のゆえに死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられました」(ローマ 4:25)。イエス様は確かに、私たちの罪を償うために十字架で死なれました。しかしイエス様が復活されなければ、私たちの罪は赦されないし、私たちは救われないのです。イエス様の復活は、イエス様の十字架の死による私たちの罪の償いが、神様に受け入れられたことの確かな証拠です。神様は、イエス様の十字架の死による償いを確かに受け入れられたからこそ、イエス様に命を与え、死からよみがえらせたのです。もしイエス様が十字架で死なれたままであったなら、私たちの罪が確かに償われたと保証するものは何もありません。イエス様が復活してこそ、イエス様の十字架の死が、確かに神の子による私たちの罪の完全な償いであつたと保証する証拠となるのです。

そしてイエス様が復活されたからこそ、私たちも罪の中に死んでいた状態から新しい命に確かによみがえつたと信じることができるのです。もしイエス様が十字架で死なれたままであったら、私たちもまた罪の中に死んだままであるということになるのです。神様がイエス様を確かに死からよみがえらせたと信じるからこそ、私たちも罪の中に死んでいた状態から新しい命、永遠の命によみがえらされたと信じることができるのです。

もしイエス様が復活されなかつたとしたら、たとえイエス様を信じたとしても、私たちの罪に対して何の力もなく、ただ私たちは罪の中に死に、滅びるしかなかつたのです。

おわりに

では私たちは、どのように生きればよいのでしょうか。19節でパウロはこう言います。「もし私たちが、この地上のいのちにおいてのみ、キリストに望みを抱いているのなら、私たちは

すべての人の中で一番哀れな者です」。

私たちがもしこの地上の生涯を豊かに生きるためだけにイエス様を信じるなら、「すべての人の中で一番哀れな者」だとパウロは言います。この地上の生涯を豊かに生きるためだけにイエス様を信じるなら、それはイエス様を信じない人よりも哀れな生き方だ、そんな信じ方ならイエス様を信じないほうが良いとパウロは言うのです。

では、どんな信じ方なら良いのでしょうか。それは、死を越えてイエス様を信じるということです。イエス様を、私たちの地上の生涯の希望として信じるだけでなく、地上の生涯を終えた死後の希望としても信じるということです。私たちの希望を、この地上の生涯だけに抱くのではなく、私たちの死後にも、イエス様がこの地上に再び来られる最後の審判の時に抱くということです。それは、私たちの希望の照準を、この地上の生涯に合わせるのではなく、イエス様がこの地上に再び来られる最後の審判の時に合わせることです。つまり、私たちの救いの完成の時に、希望の照準を合わせるということです。

イエス様がもし復活されなければ、私たちは死後に希望を持つことができません。イエス様が復活されなければ、イエス様は死の力に負けたこととなります。死に打ち勝てなかったこととなります。それゆえ私たちもまた、ただ死の力に負け、打ち勝てないこととなります。結局、人間は死の力に対して無力であるということになってしまいます。

イエス様は私たちを愛し、私たちの身代わりに十字架で死んでくださいました。それゆえ私たちは、この地上の生涯でイエス様の愛を信じて生きることが出来ます。そして平安と喜びをもって生きることが出来ます。しかし、イエス様を信じるのが、地上の生涯で愛に満たされて、喜びと平安に生きることだけ、死に対して何の力も希望も与えてくれないのだとしたら、そのような信仰にどれだけの意味があるのでしょうか？

私たち人間の最大の敵は、罪であり、その結果がもたらす死です。イエス様がもし十字架で死なただけで、死に打ち負かされ、結局死に打ち勝てなかったのだとしたら、イエス様を信じることにどれだけの意味があるのでしょうか？

イエス様は、死からよみがえられ、死に打ち勝たれました。そしてイエス様を信じる私たちをも、死からよみがえらせ、死に打ち勝たせてくださるのです。「からだのよみがえり」は、私たちが死に対して完全に打ち勝つ時です。死が完全に滅ぼされる時です。その時こそ、私たちの救いが完成する時です。私たちの最大の希望は、そこにこそあります。私たちの希望は、決して地上の生涯だけに限られたものではありません。私たちの希望は、死を越えた永遠のものです。だからこそ使徒たちは、イエス様の復活を宣べ伝えるために命を懸けることができたのです。彼らは、死を超えた永遠の希望をもっていたからこそ、命を懸けることができたのです。

私たちの希望は、「からだのよみがえり」にこそあります。イエス様の復活を信じる人は、死を超えた永遠の希望を持つことが出来ます。イエス様の復活を信じ、「からだのよみがえり」を信じる人こそ、この地上の生涯や死を恐れることなく、希望をもって生きることが出来るのです。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちの心は、永遠のものではなく、今、目の前にある地上の生涯に捕らわれています。イエス様を信じる私たちは、地上の生涯がすべてではなく、死後にこそ、また「からだのよみがえり」の時にこそ、希望があります。神様はそのためにこそ、イエス様を死からよみがえらせました。私たちの命は、決して死で終わりではありません。私たちは死後にも希望があり、永遠の希望が与えられているのです。

どうか私たちが、死を超えた永遠の希望を抱きつつ、地上の生涯をしっかり生きることができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。